

平成28年（2016年）第1回市議会定例会本会議（3月1日）

## 予算決算常任委員長報告（議案）

ただいま議題となっております議案のうち、予算決算常任委員会に付託されました議案第2号から第10号までの以上9件につきまして、委員会における審査の経過と結果を報告します。

委員会は、2月18日及び19日の分科会における詳細な審査を受け、2月23日会議を開き、各分科会委員長の報告を聴取しました。

次いで、質疑及び総括質疑はなく、討論において、議案第2号 平成27年度横須賀市一般会計補正予算（第4号）について、小室卓重委員から「横須賀市健康マイレージ制度事業は、地方創生加速化交付金を主な財源としているが、本交付金は、一億総活躍社会の実現に向けた緊急対応として創設されたものである。類似のアプリは数多くあり、本市が独自にスマートフォン用ウォーキングアプリを1,000万円以上の経費をかけて開発する必要性を感じない。費用をかけずにできる、市民が継続して健康維持・向上に取り組む仕組みづくりが必要である。

「横須賀市まち・ひと・しごと創生総合戦略（案）」では保育所等利用待機児童数の目標を0人としており、保育所等入所へのニーズが高まる中、小規模保育も含めた保育の受け皿づくりにこそ緊急性がある

と考える。また、（仮称）中央こども園建設が遅れる中、同園の計画には「利用者支援事業」も新規事業として含まれているが、開始が遅れることへの担保がない。「子どもが主役」を標榜するのであれば、緊急的な目的の交付金は、子育て支援にこそ使うべきと考えることから、議案第2号に反対する」旨の意見があり、次いで、西郷宗範委員から「横須賀市健康マイレージ制度事業について、生涯現役社会の実現を目指す本市にとって、健康づくりの環境を整えることは必要不可欠である。本事業においては、忙しくて健康づくりに取り組めない若い世代に特に利用してほしいということからも、入力などの負担も少ないウェアラブル端末との連携を意識したアプリの製作も必要と考える。健康志向が高まっている昨今であるからこそ、より使いやすく、満足度の高いアプリの開発に着手していくべきと考える。しっかりと利用者数の目標を設定し、廃止も含めた事業見直し年度を設定した上で、その時期までの広報をしっかりと行うことを課題とすることとし、議案第2号に賛成する」旨の意見があり、次いで、長谷川昇委員から「横須賀市健康マイレージ制度事業について、予算の全額が国の補助対象事業であることも踏まえ認めたいと考える。ただし、他市の先行事例等をしっかりと参考とするとともに、既に健康関連のサー

ビスやアプリを提供している事業者との連携も視野に入れて、最大限の知恵と工夫を注ぎ込む必要がある。本事業により、健康面でリスクのある層がしっかりとカバーされ、事業費約1,400万円と今後見込まれる保守管理等の費用に見合った効果を生むよう指摘し、議案第2号に賛成する」旨の意見があり、採決の結果、議案第3号から第8号まで及び第10号の以上7件は全会一致で、議案第2号及び第9号の以上2件は賛成多数で、いずれも原案どおり可決すべきものと決定しました。

以上で報告を終わります。